

農林中央金庫グループの 活動状況

当金庫グループでは、さまざまな取組みを通じて、
より良い環境・住みやすい地域・
豊かな社会づくりに貢献しています。

農林中央金庫のCSR取組方針

日本の農林水産業のために。私たちの活動は、会員とともにあります。

農林中央金庫の基本的使命

農林水産業協同組織の中央機関としての機能発揮に努めます。

当金庫は、1923年(大正12年)に「産業組合中央金庫」として設立され、1943年(昭和18年)に名称を「農林中央金庫」に改めました。現在は「農林中央金庫法」を根拠法とし、各地域の協同組合と都道府県段階の連合会(JA信農連、JF信漁連、県森連など)を会員(出資団体)とする協同組織の中央機関として活動しております。農林中央金庫法第一条の「目的」には、「会員に金融の円滑化を図ることにより農林水産業の発展に寄与し、国民経済の発展に資すること」が基本的な使命として定められています。

この使命を果たすため、当金庫は、JA・JFが組合員利用者のみならずからお預かりした貯金を原資とする会員からの預金などにより調達した資金をもとに、会員、農林水産業者、農林水産業に関連する企業、および地方公共団体などへの貸出を行っています。

また、会員が保有する資金の最終的な運用の担い手として、国内外で多様な投融資を行い、資金の効率的運用を図り、会員への安定的な収益還元に努めております。

さらに、信用事業(金融事業)を営む全国のJA・JFの事業企画、健全経営の維持、国内有数の規模である共通業務システムの運営等に関しては、都道府県および全国段階の連合会と連携し、「JAバンク」「JFマリンバンク」の名のもとで一体的な運営を行っています。

農林中央金庫のCSR取組方針

業務全般を通じて会員の事業・活動をサポートし、農林水産業のフィールドで現場の声に応えながら、会員と協調・連携したCSR活動を行ってまいります。

当金庫は、農林水産業の協同組織を基盤とする金融機関として、またグローバルな投融資活動を行う金融機関として、多様なステークホルダーの信頼を得て、経済・

社会の持続的な発展に貢献していくことをCSR活動の基本としています。取組みにあたっては、「法令等遵守の徹底など強固な内部管理態勢」と「多様な人材が活躍できる人事施策」をすべての信頼の基盤とし、業務全般を通じて、①会員への貢献、②農林水産業振興への貢献、および、③社会への貢献、を3つの柱としております。

近年は、自然環境の保全、食品の安全性、そして地域経済・社会の活性化など、わが国が抱える重要なテーマについて、企業が果たすべき責任もさらに重みを増しています。

私たち協同組織は「相互扶助」と「共生」を基本理念に掲げ、農林水産業と地域をフィールドとし、その振興と発展を事業の目的としてまいりました。そこでは、従来から会員を中心として、農林水産業者や地域社会に対する多様かつきめ細かい事業や活動が展開されています。当金庫のCSR活動は、これをサポートするカタチで、「現場の声」に応えながら、会員と協調し、相互に連携した取組みを中心に進めてまいります。

現在、当金庫は、平成25年度から平成27年度までの3年間を計画期間とする新たな中期経営計画のもと、被災地復興に継続的に取り組むとともに、当金庫の使命である、「協同組織中央機関・専門機関としての機能発揮」と「安定的な収益還元」に取り組んでまいります。

また、農林水産業系統組織の一員としての自覚の強化、系統・農林水産業に関する理解の深化のため、JAや都道府県連合会などとの交流人事の活発化や、本支店における役職員向け講演会も継続して開催しています。

CSR活動の推進体制

ステークホルダーのみならずの期待にお応えするため、CSRを推進する体制の整備に努めています。

当金庫では、平成20年7月に理事会の下部機関としての「CSR委員会」、また、CSR活動全般を統括する機能

農林中央金庫のCSR概念図

【基本的使命の遂行による社会全体の持続的な発展への貢献】

基本的使命＝農林水産業の発展への寄与



を担う「CSR推進室」を設置するなど、体制の強化を図ってまいりました。

当金庫のCSR取組方針は、CSR委員会での協議を経て理事会で決定されます。その方針に基づき、個別の活動を所管する部署が会員等との調整を行い、CSR推進室と連携しながら活動しています。また、個別事業の運

営に関しては、学識経験者や専門家の方々の運営委員会等へのご参加を得て、適切な運営に努めています。

本報告書は、CSR推進室が中心となり作成・発行しております。今後とも情報発信の充実に努め、みなさまとのコミュニケーションの充実に努めてまいります。

農林中央金庫のCSR取組方針

社会に信頼される金融機関であり続けるために、経営管理態勢の強化に不断の取組を続けます。

経営体制の詳しい情報は、2014年版ディスクロージャー誌をご参照ください。
http://www.nochubank.or.jp/ir/disclosure/pdf/discr_14.pdf

経営体制（コーポレートガバナンス）

系統信用事業を支える基本的使命と国内有数の金融機関としての社会的責任を果たす基盤であるコーポレートガバナンスの強化に努めています。

当金庫は、農林水産業者の協同組織の全国金融機関であると同時に、国内外での巨額な資金運用を通じて金融・資本市場に大きな影響を及ぼす機関投資家としての側面をあわせ有しています。これを受けて、当金庫の意思決定は、会員総会に代わって会員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を遵守しつつ、農林中央金庫法に定められた「経営管理委員会」と「理事会」が協同組織の内外の諸情勢を踏まえ、分担・連携する体制としています。

内部統制強化

経営管理態勢の構築を経営の最重要課題と位置付け、内部統制強化に向けた不断の取組を続けています。

当金庫は、農林水産業者の協同組織を基盤とした金融機関としての基本的使命と社会的責任を果たしていくために、経営管理態勢の構築を経営の最重要課題と位置付けるとともに、企業倫理および法令などの遵守、適切なリスク管理その他業務執行の適正性を確保するための内部統制に関する基本方針を制定しています。

コンプライアンス

コンプライアンス態勢の整備と実効性向上を、重要な経営課題として不断の取組を続けています。

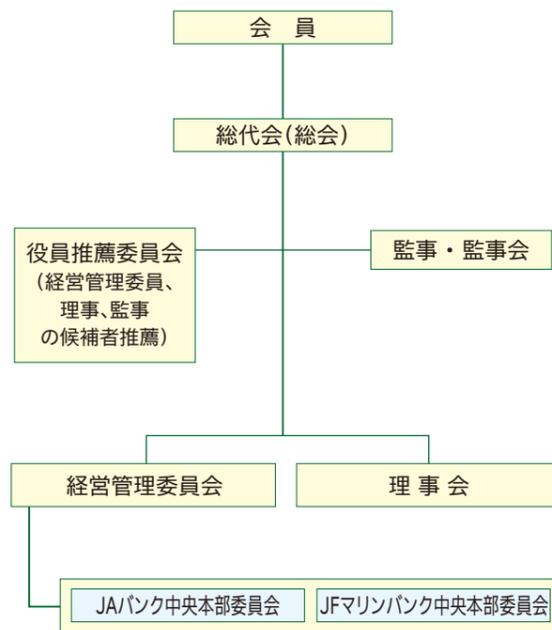
当金庫は、わが国金融システムの中核を担うグローバルな金融機関として、またJAバンク・JFマリンバンクの全国機関として、その基本的使命と社会的責任を果たし、社会情勢や経営環境の変化を踏まえ、お客さまや会員からの信頼に応えるために、徹底した自己責任原則のもとで法令遵守等社会的規範に則った業務運営を行うとともに、ディスクロージャー（情報公開）とアカウントビリティ（説明責任）を重視し透明性を確保するよう努めることにより、コンプライアンスへの不断の取組を積み重ねています。

リスク管理

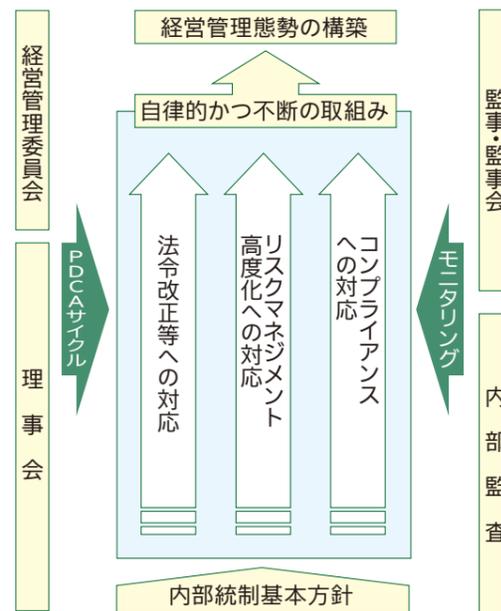
農林漁業協同組織の全国金融機関として取り組む収益還元や機能発揮を支える安定した財務基盤を構築するため、リスク管理態勢の高度化に努めています。

当金庫は、認識すべきリスクの種類や管理のための体制・手法などのリスク管理の基本的な体系を定めた「リスクマネジメント基本方針」を制定し、業務を運営するなかで直面するリスクの重要性評価を行い、管理対象とするリスクを特定したうえで、各リスクの特性を踏まえた個別の管理を行うとともに、計量化手法を用いてこれらのリスクを総体的に把握し、経営体力と比較して管理する統合的リスク管理を行っています。

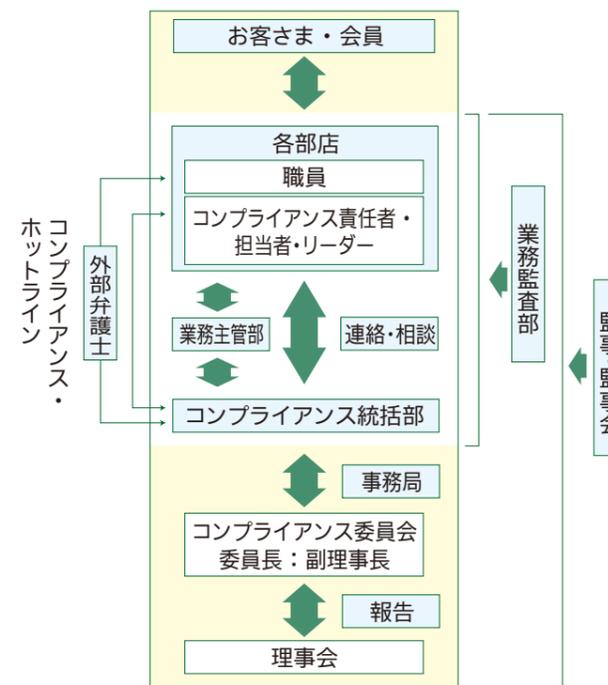
農林中央金庫の経営体制



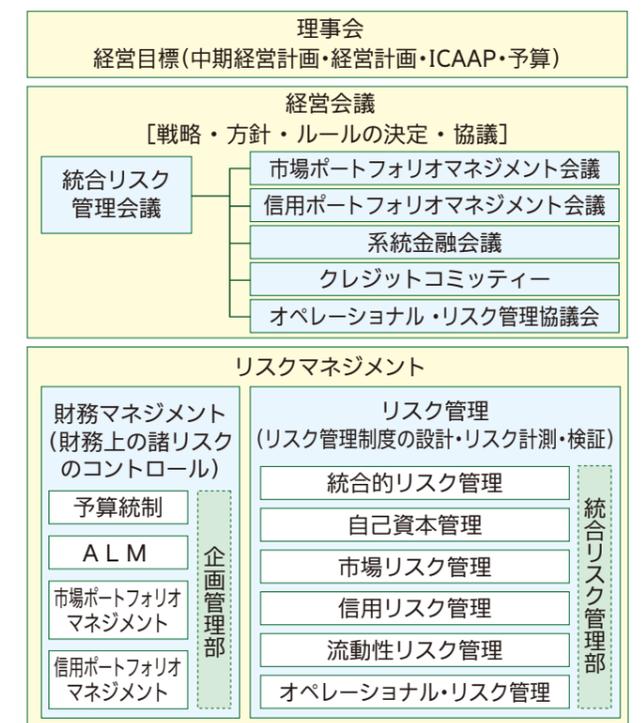
内部統制強化への取組み



コンプライアンス運営態勢



リスク管理体制



人づくり

人材育成

経営環境の変化に柔軟に対応するチャレンジ精神に溢れた中核人材の育成を目指し、職員一人ひとりの自主的な取組みを支援しています。

当金庫は、人材育成にも力を入れています。業務目標の設定や成果の検証、仕事上で発揮された能力の振り返りを通じて、職員の能力開発に対する意識・取組みの向上を図り、豊富な研修メニューでサポートを行っています。うち、新入職員には、全国各地のJAで、約2週間のJA現地研修を実施し、「現場からの学習」を促しています。

さらに、系統団体などから有識者を招聘した研修会を行うとともに、若手・中堅職員を中心にJA・JA信農連ほか系統団体との人的交流を強化しています。

主な人材育成プログラム

集合研修

- キャリア開発研修:能力の棚卸・自己分析を通じてキャリア開発意識を醸成
- 管理職研修:リーダーシップ、部下育成、ビジョンメイキング、効率的な業務処理等のマネジメントに必要な知識の習得・向上
- 経営職育成研修:組織経営、部店マネジメント等に必要な知識の習得・向上
- 金庫ビジネススクール:企業経営にかかる基礎理論の理解とコンサルティング能力の向上・定着、組織横断的なネットワークの構築

自己啓発支援

- 通信研修、外部資格取得、外国語学校通学助成制度:職員の自律的なキャリア開発の支援として、各種取組みにかかる費用の一部を助成

外部派遣

- 経営大学院(経営者コース):国内外大学院における経営能力の高度化

- 海外留学:MBA・LL.M等への派遣を通じた専門知識の習得、国際感覚の養成
- 海外支店トレーニー制度:海外支店への若手職員派遣を通じた国際感覚の養成
- 異業種交流型研修、運用会社、JA・JA信農連等への派遣・出向を通じた人材交流、専門知識の習得

新人教育

- 新入職員職場教育制度、指導係研修
- 受入研修、新人基礎研修、**JA現地研修**

その他

- マンツーマン・コーチング
- 業後研修、土曜セミナー
- JA全中主催の「JA全国連中核人材育成研修」「協同組合セミナー」への派遣、系統有識者等による講演、職員勉強会を通じた系統組織の一員としての意識醸成
- 職場内英会話教室
- eラーニング

JA現地研修(研修先:JA南彩に学ぶ)

JA南彩(埼玉県) 現地研修全日程

日	研修先	研修内容
1	本店	オリエンテーション、農家・農園訪問
2	本店	JA南彩ポイントカード説明、管内JA施設訪問
3	営農経済センター	農家訪問、新規就農予定者訪問
4	本店・ローンセンター	日次業務体験、住宅ローン営業同行
5	営農経済センター	農家訪問
6・7	直売所・食堂	野菜の梱包、米の計量・洗米、うどんづくり体験
8	組合員宅	梨の収穫等
9	本店・支店	日次業務体験、渉外担当者同行
10	組合員宅	梨の収穫等
11	営農経済センター	梨の選果、農家訪問
12	給油所・本店	給油所業務、研修報告

JA研修全日程を終えた感想

JA南彩の現地研修では、管内の農家訪問を中心に渉外担当者同行や直売所業務等、幅広い業務を経験することができ、JAが地域の人々の生活の大部分を担っていることを強く感じました。

農業実習では梨の収穫を経験しました。「収穫」という一年のなかで最も充実感のある作業を手伝わせていただき、農業の楽しさを感じる一方、炎天下での農業の過酷さも実感しました。さらに収穫にいたるまでの苦労話を聞かせていただき、収穫の背景には枝の剪定や梨棚の修繕等、早い段階からの不断の努力の積み重ねがあることが分かりました。また、「農業をやりたい」との思いから、就農を目指して農業法人にて研修をしている方々への訪問では、研修生が営農指導員にしきりに質問・相談しており、JAと組合員のつながりを垣間見ることができました。

本研修に参加するまでは、普段扱っている資金の性格を理解していても、十分に実感できていなかったのが実際のところではありましたが、本研修を通じて、資金に込められた組合員の想いを感じることができ、働くうえでの糧を得ることができました。組合長の「10年後にもう一度来てほしい。10年後の井上君の目にはJA南彩がどう映るのか聞いてみたい」とのお言葉を胸に、本研修にて出会った方々の期待に応えるべく、金庫の使命・責任感を背負って業務に励み、10年後、JA南彩に再訪したいと思います。



農林中金全連アセットマネジメント株式会社 井上 渉

人的交流の強化

JA・JA信農連ほか系統団体と当金庫での人的交流を従来以上に充実させ、相互理解の促進とノウハウ共有化・人材育成に努めています。

JA → 農中

JAからのトレーニーの受入れ

JAにおける信用事業の推進企画・推進指導業務の中核を担う人材の育成を目的に、JA信用事業企画・実践研修によるトレーニーの受入れや、金庫支店におけるJA職員トレーニーの受入れ(10名)を行っています。



JA八戸 ^{いちのわたり かずゆき} 一ノ渡 和幸
(研修先:青森支店)

研修では、県内の先進JAの住宅ローン推進に対する取組み、および業者へのアプローチ手法を学んでいます。今後は、自JA管内に合致した推進スキルを確立し、住宅ローン推進業務に役立てたいと考えています。



JA鷹巣町 ^{たかのすまち きさきもり りょうへい} 笹森 亮平
(研修先:秋田支店)

自身初の融資業務、自JA初のローントレーニーとして、金庫にお世話になっております。研修を通して感じた考え方、目線の違いを自JAで実践し、事業伸長に寄与したいと思えます。



JAみやぎ仙南 ^{せんなん おしま ゆうた} 小島 佑太
(研修先:仙台支店)

共済から融資ということで、勉強の日々ですが、研修での知識や経験を糧に、自JAでの業務に活かし、組合員ニーズに応えられるよう勉強してまいります。



JAなすの ^{こいずみ せいじ} 小泉 誠司
(研修先:宇都宮支店)

農業法人に必要な知識、決算書分析等を研修させていただいています。今後は、金庫との「橋渡し役」として情報を共有し、組合員・JAのために、この経験を活かしていきたいと思えます。



JAいなば ^{かがみ ゆき} 加賀見 由希
(研修先:JAバンク企画推進部)

実践研修では、全国情勢や優良事例を学び、他地域の職員方とも交流することができ、大変貴重な経験となっています。金庫での業務に携わるなかで、一つでも多くのことを吸収し、JAに戻ってからの活動に活かしたいと思えます。



JA十和田おいらせ ^{やえざわ まさゆき} 八重澤 正幸
(研修先:青森支店)

普段見ることのできない他JAの住宅ローン推進体制等を学ぶ機会を与えていただき、日々貴重な経験をさせていただいています。今後、自JAの業務向上に役立てたいです。



JA秋田しんせい ^{きさき きこうた} 佐々木 晃太
(研修先:秋田支店)

県内のJAや大手住宅業者等を訪問し、他JAの取り組み方、他行の商品知識・業者、顧客のニーズに合った商品等を学んでいます。今回の研修を活かして、自JAでの推進活動に努めたいと思えます。



JA加美よつば ^{あきの としひこ} 浅野 敏彦
(研修先:仙台支店)

JAと金庫の関係を理解しながら、他JAの推進にかかる取組みを学んでいます。金庫での貴重な経験や人とのつながりを、大事にしていきたいと思えます。



JAたまな ^{たかね まし} 高根 仁
(研修先:熊本支店)

担い手への金融対応強化に必要な知識の習得や、訪問活動をさせていただいています。今後、担い手に対するJAの“出向く意識”と体制づくりの確立をしていきたいです。



JAべっぷ日出 ^{ひし かわむら しんじ} 河村 紳司
(研修先:JAバンク企画推進部)

大分県のJAべっぷ日出より、4月からお世話になっています。このプログラムを通じて、「JAの視点」と「金庫の視点」の違いを感じたいと思えます。

JA信農連・JAからの出向者・トレーニーの受入れ

リテール企画・事務統一企画・制度対応・農業融資・システム開発・法人融資・有価証券運用といったさまざまな業務でJA信農連・JAの職員の受入れを進めているほか、JAバンクの全国統一システムであるJASTEMシステムを担う農中情報システム株式会社でも人材を受け入れ、システムの安定運営に取り組んでいます。

JAバンクのリテール企画業務

JAバンク中期戦略で掲げる生活メインバンク機能強化にかかる業務企画を担当しています。各県での経験を、全国のJAバンクで取り扱う貯金・ローン・年金・給与振込・JAカード等の商品・サービスや、CS改善活動・現場営業力強化策の全国企画に活かしています。



JAバンクの事務手続きにかかる維持・管理業務

JAバンクにかかる全国統一事務手続きの維持・管理や、その利用徹底に向けた県域取組支援業務を担当しています。全国統一事務手続きの制定・改正等については、全国で一元的に行うことによって、JAバンク全体としての品質維持、効率性向上等を目指しています。



JAバンクに関する制度対応業務

JAバンクの業務にかかる法規制・会計制度等について、さまざまな環境変化のもと、適切な対応が行われるよう、制度全般に関する取りまとめを行う役割を担い、特に最近では、利用者保護に関する対応に力を入れています。

また、JAバンクが一体的事業運営を行っていくための「JAバンク基本方針」も、このチームが担当しています。



農業融資・社会貢献活動の企画業務

JAバンクが掲げる「農業メインバンク機能の強化」に向け、全国のJAバンクで取り扱う農業融資商品や、地域農業の担い手への訪問・融資・相談対応、JAバンクの社会貢献活動「JAバンクアグリサポート事業」などの企画を担当しています。

また、当金庫自身の農業融資業務を直接担当する出向者もおり、農業融資業務に関するノウハウの共有も行っています。



法人融資業務

当金庫本・支店で行う法人融資を担当しています。

JA信農連・JAで培われた経験をもとに、当金庫のフィールドで融資業務に携わることにより、ノウハウの共有と蓄積を進めています。



JASTEMシステムの開発・運用業務

JAバンクの全国統一システムであるJASTEMシステムの開発・運用や、マニュアル類の作成、システムユーザーのサポート等を担当しています。JA信農連・JAで培った現場での実務経験を活かし、より良いサービスの提供に向けた取組みをシステム面から支えています。



有価証券運用業務(トレーニー制度)

当金庫では、JA信農連を中心とした人材育成の一環として、有価証券運用に関する研修制度を運営しています。研修は、当金庫グループ内およびみずほ証券株式会社とも連携し、講義や模擬デール、ポートフォリオ分析などを行う実践的な内容となっています。

昭和60年の制度創設以来、これまでに迎えた研修生は600名を超えています。



人づくり

人的交流
の強化

農中 → JA・JA信農連・県中央会

JA・JA信農連・県中央会への出向

当金庫の基盤である系統信用事業の現場を肌で感じ、協同組織中央機関職員としての自覚を一層高めることを目的に、受入れ先の協力を得て当金庫職員の系統団体(JA・JA信農連・県中央会)への出向(30名)を充実させています。

JAが県内ナンバーワンの金融機関になるためには、どうすれば実現できるのかと悩みながら、日々業務に取り組んでいます。

現場の変革とは、「日頃の信頼関係を背景に把握した現場目線の知見を、いかに組織的取組みに昇華させるか」だと実感しています。

多種多様な現場の課題・組合員ニーズを日々実感しており、JAバンク職員として、それらに応える「現場力」を学ばせていただいています。

人の数だけ現場があり、現場の数だけ悩みもありますが、すべては利用者のため。いかに共感し、ともに悩むか、日々貴重な経験です。



昨年2月から、ブロックアドバイザーとして、山梨県信連に出向し、県内農協系統信用事業の推進企画を担当しております。微力ですが、JAや信連のみなさんと一緒になって、山梨の信用事業の発展に取り組んでまいります。

今「農業融資」に求められていること、JAバンクに期待されていることは何か。JAのみなさんとともに考えながら取り組む業務に、大きなやりがいを持って尽力しています。

農家の経営を改善するため、JAグループとして貢献できることは何か。JAと各県連間で知恵を出し合いながら、日々模索しています。

今年2月の大雪で、組合員が受けたイチゴやトマト等の施設ハウスの甚大な被害を目の当たりにしました。「JAグループの存在意義は？果たせる役割とは何か？」と改めて強く考えた場面でした。

農家組合員のさまざまなニーズを汲み、より良いサービス提供に向け、JAとともに切磋琢磨する日々。農業金融の最前線で汗をかけることをありがたく思います。



JAが環境の変化に適応しながら、何世代にもわたって組合員と取引してきたということを目の当たりにしています。

系統職員としての原点に立ち戻り、第一次産業の振興に対し、どのように貢献できるかを日々考えています。

信用事業の実績を伸ばすため、信連のみなさまと「どうなるのか」ではなく、「どうするのか」を一緒に考え、行動しています。

JAの現場の方々と一緒に考え、一緒に汗をかき、一つひとつ、目の前の課題を解決していきたいです。

JAバンクの最前線であるJA支所の方々と課題を共有し、一緒に汗をかきながら施策を実践していく。日々勉強の毎日です。

目標を達成するために、組織をより良くしていくために、JAのみなさんと頭を悩ませながら、日々学ばせていただいています。

JAバンクを現場から見つめつつ、一つでも多くのことを吸収するため、日々業務に励んでいます。

県域目標数値の達成に向け、JA・信連・金庫が一層連携することの重要性を学んでいます。

人づくり

講演会等

系統団体や農林水産業に従事されている有識者の方々を招聘し、本支店の役職員や階層別研修会における研修生を対象とする講演会を開催するなど、農林水産業や系統団体に貢献していくという当金庫の基本的使命を役職員全員がより深く理解し、業務に活かしていくための取組みを進めています。

平成25年度は、本店地区において、JAとびあ浜松の中野理事長、全国漁協女性部連絡協議会の森会長、全国森林組合連合会の佐藤会長、農事組合法人サカタニ農産の奥村理事をはじめ各方面から講師をお招きし、計6回にわたり農林水産業の現状や先進的な取組み、震災復興対応、系統団体による地域に密着した取組み、当金庫に期待することなど、広範なテーマをお話いただきました。また、支店においても、農林水産業・系統組織に関する勉強会を実施しています。



全国漁協女性部連絡協議会
会長理事 森 武美氏

日本農業経営大学校

農業界・産業界・学界等のオールジャパンの連携体制のもと、日本農業の未来を拓く次世代の農業経営者を育成するため、平成24年2月に「一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン」が設立されました。あわせて、同法人のコア事業として、平成25年4月に「日本農業経営大学校」が開校しました。

当金庫は、同法人設立の趣旨に賛同し、全中・全農・全共連とともに同法人の正会員として参画しており、メインスポンサーとして大学校の立ち上げ・運営に、全面的に協力しています。

当校では、座学だけでなく、実習や現場での研修で、農業経営者の生活を体験したりと、吸収することが多くあります。また、有機的な人と人とのネットワークを作ることが将来に役立つと考えています。



日本農業経営大学校
第1期生 村山 周平様

実家は新潟県津南町で稲作を中心とした農家です。元々は農家を継ぐことは考えていませんでしたが、4年制大学(経済学部)在学中に「食」への関心が高まり、「農家の営みを守りたい」と考え、日本農業経営大学校に入学しました。

当校では、座学だけでなく、実習や現場での研修で、農業経営者の生活を体験したりと、吸収することが多くあります。また、有機的な人と人とのネットワークを作ることが将来に役立つと考えています。

「日本一消費者から信頼される農家になる!」ことを夢見て、残りの学生生活を精進していきたいと思ひます。

学生たちからの声

4年制大学の農学部在籍時に、東日本大震災がありました。ちょうど「農」と「食」について学んでいたさなかだったこともあり、人々が食料の買い占めに奔走する姿を目の当たりにした時は、本当にショックでした。ただ、この経験がきっかけとなって、「職業としての農業」を意識し始めるようになり、日本農業経営大学校への入学を決意しました。

まだ入学して間もないですが、これまで学んでこなかった「経営学」にも触れ、刺激的な毎日を過ごしています。こうした学びが、少しでも自分の夢の実現に結実するよう、農業経営について学んでいきたいです。



日本農業経営大学校
第2期生 米森 淳様

当校から全国に巣立つ明日の農業を担う新進気鋭たち

日本農業経営大学校で取り組む教育の最大の特徴は、主眼が“農業技術の習得”だけではなく、“日本農業の未来を担う人材育成”にある点です。学びを通して「経営力」「農業力」はもちろん、「社会力」「人間力」を育むことで、持続可能な経営を確立できる農業経営者、ひいては世界的な視野と地域での実践力を兼ね備えたリーダーの育成を目指しています。



日本農業経営大学校
校長理事 岸 康彦様

また、当校が東京の品川にあるという立地環境も、豪華講師陣を全国から招聘できる好条件として、最大限発揮されています。こうして全国から集まってきた学生たちは、卒業後、全国各地に根を下ろしていくでしょう。それら散在した点同士がネットワークを張り巡らせた時、日本の農業に変革が起こるのではと期待しています。

農林中央金庫グループの社会・環境貢献活動

主な社会・環境貢献活動実績 (平成25年度)

地域・社会貢献活動

「花いっぱい運動」の全国展開

- 40の部・支店・推進室で地方公共団体、各種学校、社会福祉協議会等にチューリップ球根、花種を寄贈
- 花いっぱいコンクール等各地緑化推進活動への協賛

環境美化活動への参加・協力

- 17の部・支店・推進室で清掃ボランティアに参加
- 富士山(甲府)、御堂筋(大阪)、長崎市等の環境美化団体・イベントへの寄付

地域振興の支援

- 「おきなわ花と食のフェスティバル」、「農・林・水産業まつり」、「朝ごはん食べよう運動」、「ファーマーズ&キッズフェスタ2013」等、地方公共団体・系統団体の地域振興活動への協賛

社会福祉活動・義援金活動

- 当金庫およびグループ、職員有志による募金協力(NHK歳末たすけあい・海外たすけあい、日本赤十字社、赤い羽根共同募金、JAグループ復興支援募金、漁船海難遺児育英資金年末募金、緑の募金、アジアとの共生募金)
- 当金庫創立90周年を踏まえた、法人としての募金協力(3募金に対応)
- ランドセルカバー寄贈(青森)、防犯ブザー寄贈(高知(協賛))、交通安全運動(大分)
- 街頭での献血の呼び掛けを実施(新潟)

海外での取組み

- NY支店「農林中金基金」による寄付金支出(ジャパンソサエティ、NY植物園、社会的弱者支援活動、メトロポリタン美術館等)
- インターン学生の受入れ(北京)
- 和食紹介イベントへの協賛(ロンドン)
- 日本人学校への食農教材本贈呈(ロンドン)
- 国際協力NGOジョイセフへの協力(農林中金全共連アセットマネジメント(株))



植栽した花壇(札幌支店)



清掃ボランティア
(和歌山推進室)

環境・自然保護活動

地球温暖化防止、生物多様性保全活動への協力

- 間伐材の利用促進
木質ペレットストーブ、木製ベンチ・レイズドベッド(花壇)等の寄贈、「木の名刺を使おう運動」、「間伐材使用の紙利用の促進」
- 林野庁木育事業と連携した木育活動の実施(山形、関東業務部、福岡)
- 日本野鳥の会活動への協力(フリーペーパー『Torino』の発行支援)

環境負荷低減に向けた当金庫グループでの活動

- 省エネルギー対策(省エネ法、東京都条例、千代田区条例、クールビズ等節電対応)
- ペーパーレス化、資源リサイクル推進
- グリーン購入法適合商品購入
- ペットボトルキャップリサイクル活動
- 持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則(21世紀金融行動原則)の遵守



木製品の寄贈(大阪支店)



『Torino』(日本野鳥の会)

教育・研究支援活動

担い手育成

- (一社)アグリフューチャー・ジャパンの農業者育成に向けた取組みへの各種支援(日本農業経営大学校)

大学寄付講座

- 東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、東京理科大学、一橋大学、京都大学



ファーマーズ&キッズフェスタ
2013



大学寄付講座の講義風景
(東京理科大学)

地域・社会貢献活動

花いっぱい運動



熊本支店が寄贈したチューリップ（上）と子どもたちからのお礼状（左）

熊本支店の取組み

熊本支店では、熊本市の緑化推進事業に協力し、昭和48年より40年以上にわたり、毎年チューリップの球根1万5,000球を寄贈しています。

熊本市役所で贈呈式を行い、その様子は例年地元紙にも掲載され、公立・私立を含め市内の約8割に当たる約300を超える小中学校や保育・幼稚園に毎年配られており、地域の社会貢献の一環として、定着しています。

熊本市内の小中学校は、緑化コンクールが盛んで、全国大会では特選・入賞を果たすなど非常に熱心に取り組んでいるため、生徒のみならず先生方も毎年心待ちにしているそうです。

また、チューリップの咲き具合によっては、卒園式や入園式の頃に色鮮やかな花が咲くため、園児や先生に加えて保護者の方々も、今年はどんな花が咲くのかを楽しみにしているそうです。

寄贈先からの声

たくまひがし 託麻東小 緑の少年団 代表 にしはし みほ 西橋 美穂様

全校挙げて学校緑化に取り組んでいる本校のなかでも、本団は緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を行っています。校庭の花壇では、いろいろな草花を育て、毎朝水やりなどの世話を続けています。昨秋もまた、農林中央金庫熊本支店様よりいただいたチューリップの球根をみんなで仲良く植えました。春には、色とりどりの花が咲き、学校生活をより潤いのあるものにしていただきました。永年にわたる地域貢献のご支援に心より感謝申し上げます。



海外での取組み

和食のユネスコ無形文化遺産への登録記念イベント：レセプションの様子



ロンドン支店

当支店は、平成26年2月10日に在英日本国大使館とともに、和食のユネスコ無形文化遺産への登録を記念するイベントを開催しました。在英日本国大使館に、当地の大臣、政治家、企業経営層、マスコミ関係者など150名以上が招待され、大盛況のうちに終わりました。

イベントは、林駐英大使の挨拶に始まり、安倍総理による和食アピールのビデオメッセージが流されました。メインイベントとなる日英の有名料理人の対談では、村田吉弘氏（日本料理アカデミー理事長および京都「菊乃井」主人）とヘストン・ブルメンタル氏（三ツ星レストラン「The Fat Duck」オーナー）との間で、和食の真髄である“うまみ”についての議論が盛り上がり、五感で堪能する和食の奥深さが示されました。

続くレセプションでは、当地の有名和食レストランによって、それぞれ味と見た目に創意工夫を凝らした一品料理が振る舞われました。参加者は、バラエティー豊かな和食に舌鼓を打ち、会場は大変なにぎわいとなりました。

今回のイベントは、英国における和食と日本の食文化に対する強い関心、そして一層の普及の可能性を再認識する良い機会となりました。今後も引き続き、食を通じて文化の橋渡しをすると同時に、和食と日本の食材のファンを増やせるような活動を続けていきたいと考えています。



左から林駐英大使、村田シェフ、山宮ロンドン支店長

写真提供：在英日本国大使館

災害への支援

豪雪災害にかかるJAグループ支援隊、金庫支援隊への参加

平成26年2月、日本列島は記録的な大雪に見舞われ、関東地区を中心にビニールハウス等の農業用施設に甚大な被害が発生しました。JAグループでは「平成26年豪雪災害対策中央本部」を設置し、当金庫も含めた全国組織による支援策の一環として、「JAグループ支援隊」を組成し、被害の大きい群馬県や山梨県等の組合員等被災者の早期営農再開に向けたビニールハウス撤去等を行いました。

また、当金庫は、(公社)日本農業法人協会とパートナーシップ協定を締結しており、協会会員の被災農業法人からの人的支援ニーズが寄せられたことから、当金庫独自に「金庫支援隊」を組成し、農業法人へのボランティアの職員派遣も行いました。

このほか、被災地域の複数支店においても、県内JAグループと連携したボランティアの職員派遣を行っており、平成26年3月下旬以降5月末時点において、栃木県、群馬県、山梨県、埼玉県、群馬県の組合員農家や農業法人に対し、本店・支店職員が交代で訪問し、営農再開に向けた豪雪被害の復旧作業支援を行っています。



JAグループ支援隊



金庫支援隊

研修所敷地・建物の寄付

小金井研修所（北側）の寄付

当金庫は、平成26年3月31日付で、「小金井研修所」の北側敷地および建物を、東京都小平市に寄付しました。

小金井研修所は、昭和39年に、当金庫創立40周年を記念して、運動場の開設および研修所建設を目的として、用地を取得したことにはじまります。その後、昭和40年の運動場開設、昭和41年の別館竣工、昭和51年の本館竣工を経て、当金庫職員および系統団体職員を対象とする研修のほか、当金庫職員の運動会、全国信連野球大会等の各種イベントで、幅広く活用してきました。

今般、当金庫では、創立90周年事業の一環として、当金庫および系統団体の人材開発の中核拠点とする研修施設を新たに品川に建設し、小金井研修所を閉鎖することとなりました。

小金井研修所の敷地は、後期旧石器時代の人々の暮らしを知ることができる国内有数の鈴木遺跡内に位置しています。特に、北側においては、非常に貴重かつ重要な部分を形成しており、寄付する運びとなりました。

小平市では、鈴木遺跡の国指定史跡を目指し、公園として整備していく予定です。



小金井研修所寄付セレモニー



(旧)小金井研修所別館

環境貢献活動

木育への取り組み



長崎県木育推進プログラム



福岡県木育推進プログラム

平成25年度木育事業推進活動

当金庫が、木育プログラムのツールを寄贈する木育事業は、幼少期から木に親しみを持ってもらうことを目的とし、林野庁の補助事業としても全国で取り組まれています。平成25年度の本推進事業では、4県5校の小学校で木育授業を実施しました。

長崎県では、平成25年10月2日に実施。長崎大学、長崎県森林組合連合会、長崎南部森林組合が連携し、小学4年生の児童約94人を対象に、体育館での座学および間伐の体験学習を行いました。座学では、長崎県の森林の課題や木材利用の現状について、体験学習では、間伐の意義などを学びました。参加した児童からは、喜びの声がたくさん寄せられました。

福岡県では、福岡教育大学、福岡県森林組合連合会と福岡県広域森林組合の福岡南支店および宗像支所、福岡県木材組合連合会が連携し、全2校約130人の児童に対し、木育授業を実施。丸太切りを体験した児童たちは、のこぎりを一所懸命に動かしながら、歓声を上げていました。

また、埼玉県では、埼玉大学、埼玉県森林組合連合会、埼玉県中央部森林組合ほか、森づくりの関係者等が連携し、林間学校での木育授業を実施。山形県でも、埼玉大学の監修のもと、山形県森林組合連合会、森づくりの関係者等が連携。それぞれに座学やコースターづくり等を通じ、木を大切に利用していく心を育みました。

寄贈先からの声

長崎大学教育学部附属小学校教諭 寺井 秀行様

地域の森を健康な森にするための適切な手入れや、木材の特徴について身に付いた木育授業は、その後の野外宿泊のさまざまな場面で、子どもたちの意識を高めるものとなりました。特に、目の前で林業をされている方々の実演を見たり、実際に丸太を伐ったりという体験は、子どもたちが木に関心を抱く、とても良いきっかけであったと思います。ありがとうございました。



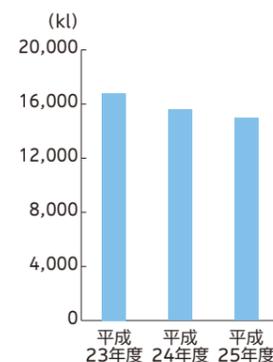
地球温暖化対策に向けた取り組み

省エネルギー・省資源への取り組み

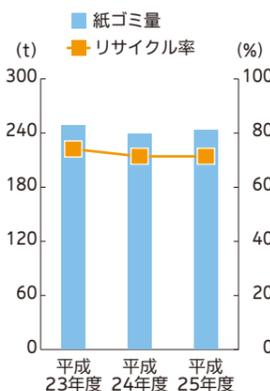
当金庫は、省エネ法改正を機に、エネルギー管理体制を新たに構築して、全社的なエネルギー使用量の「見える化」を実現したほか、設備更新時における省エネルギー化の検討、適切な空調温度の設定、クールビズ活動など地球温暖化対策にも引き続き積極的に取り組んでいます。また、両面コピーの原則化や会議システムの活用によるペーパーレス化等による省資源化にも取り組んでいます。

今後も、省エネ法や各都道府県条例等に適切に対応するほか、夏・冬における節電への取り組みも継続していきます。

エネルギー使用量
(原油換算)の推移



紙ゴミ量とリサイクル率
(DNタワー)



教育・研究支援活動

大学への寄付講座開設



日本電産(株)永守社長による講義風景(農中信託銀行寄付講座)



当金庫寄付講座での活動の成果が書籍化され、広く社会に発信しています。京都大学『動きはじめた「農企業」』(左)、慶應義塾大学『農業・農村で幸せになろうよ』(右)

大学と連携し、学生たちの教育や研究を支援

当金庫は、農林水産業や金融・投資に関する教育・研究活動に寄与するため、平成20年度より寄付講座の設置に取り組み、国内6大学で開設しています。

寄付講座には、当金庫およびグループの役職員も出講し、次世代を担う若者に対して、当金庫およびグループで蓄積した実務知識・ノウハウを提供しています。

大学名	設置科目	備考
早稲田大学(オープン教育センター)	農山村体験実習 食と経済、協同組合論(隔年)	(株)農林中金総合研究所との共同設置。
早稲田大学(委託研究)	農業・食料の世界的枠組み形成と国際交渉に関わる研究	
東京大学経済学部	証券投資：理論と実践	
東京理科大学工学部	金融工学Ⅰ・Ⅱ	農中情報システム(株)との共同設置。
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科	アグリゼミ	
一橋大学経済学部	自然資源経済論	(株)農林中金総合研究所が運営に協力。
京都大学大学院 農学研究科・農学部	次世代を担う農企業戦略論	

※平成26年度から、京都大学大学院経済学研究科・経済学部において、農中信託銀行(株)が寄付講座を設置。

東京理科大学工学部経営工学科 講師 塩濱 敬之様

私たちが取り巻く経済・金融環境は、世の中が大きく変化するのに合わせて目覚ましく変動しています。このような社会において、金融に関する諸問題に対して、主体的に意思決定ができる人材を養成することが本寄付講座の開設目標の一つであります。その目的達成のために講義科目「金融工学Ⅰ・Ⅱ」を開講しています。オペレーションズ・リサーチや統計的手法を利用する応用数学の側面を持つ金融工学は、数理モデルを通して実際の金融環境を抽象化します。

このような金融工学教育の機会を通して、私たちは、キャリア教育の一環として経済・金融環境を通して社会を見る視点の教育や、またクォンツ等の高度な専門知識を身に付けた人材育成を視野に入れた実践的取り組みを行っています。



農中信託銀行の京都大学への寄付講座開設

当金庫の子会社である農中信託銀行は、平成26年度上期から京都大学において寄付講座を開設しました。「企業価値」をキーワードに、アカデミックかつ実務的な

視点から論点を整理し、企業価値創造と評価における実際の取り組みについて、企業経営者および運用者などの実務者が中心となってリレー方式で講述しています。

京都大学大学院経営管理研究部 教授 川北 英隆様

高い企業価値を生み出し得る企業に投資することは容易ではありません。最初に、これに合致する企業を見つけないといけないからです。また、そのような企業に我慢強く、長期に投資しないとけません。残念ながら、このコンセプトで成功してきた日本の投資家は極めて少なく、農中信託銀行は、この数少ない投資家の一つだと確信しています。

その農中信託銀行から京都大学が寄付を受け、新たに講義を設置できるだけでも意義深く、これに加え、エクセレントな企業の経営トップに壇上で語り掛けてもらえれば、前途洋々たる学生は今後の長い社会人生活における刺激を受けることでしょう。

農中信託銀行ホームページ <http://www.nochutb.co.jp>